

〔第15回〕

# GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

## お口からはじめる サクセスフル・エイジングの新戦略

口腔疾患研究部

松下 健二 部長

2023年5月16日(火) 15時00分～  
第1研究棟2階大会議室

年齢を表す「齢」という字は「年齒（としは）」とも書き、長寿への願望がこめられた言葉である。また、『論語』には「没齒（ぼっし）」という言葉があり、寿命が尽きることを意味している。古来より健康と長寿は人々の最大の関心事であり、その達成のために自分の歯を保つことがもっとも重要であることが認知されていたのである。口腔は食や感染の入り口であり、血管、消化管、気管等を介して全身の臓器とつながっているため、口腔機能の低下や口腔内の感染は全身の重大疾患に影響を及ぼす。口腔と全身の関係の究明は、当研究部創設以来の重要なミッションである。我々は現在、加齢に伴う口腔の変化を病理組織学、免疫学、細菌学の視点から総合的・統合的に解析を行っている。また、その制御による新しい口腔の健康増進法の開発を目指している（長寿医療研究開発費21-6、第一三共ヘルスケアとの共同研究等）。さらに、口腔の健康と認知機能の関連性を臨床研究やマウスを用いた解析で明らかにしつつある（基盤研究B、AMED、ライオン歯科衛生研究所との共同研究等）。

本セミナーでは、臨床研究から明らかになりつつある口腔と脳の関連性について解説するとともに、低分子化合物を応用した口腔および脳の老化制御の可能性について報告したい。

座長：四釜 洋介 副部長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)